

2019年度（2020年3月期） 第3四半期連結決算概要

1.2019年度 第3四半期 決算実績 <対前期>

(1)決算実績のポイント 増収減益：増収は3期連続、減益は2期連続（純利益ベース）

都市ガス販売量	△714百万m <sup>3</sup>	工業用需要家の需要減等
電力販売量	+3,160百万kWh	小売件数増等による販売量増
売上高	+354億円	LNG販売量増などによる「ガス」の売上増 +77億円 小売電力販売量増などによる「電力」の売上増 +580億円 「調整額」（セグメント間の売上の消去）による減 △329億円
営業費用	+85億円	原油価格下落影響などによる「ガス」の営業費減 △223億円 小売電力販売量等の増加に伴う「電力」の営業費増 +564億円 「調整額」（セグメント間の費用の消去）による減 △331億円
営業外損益	+36億円	持分法による投資利益 +26億円 受取配当金 +27億円 投資有価証券評価損 △19億円
特別損益	△368億円	(当期) 減損損失 △80億円 (前期) 固定資産売却益 +291億円 投資有価証券売却益 +62億円 投資有価証券評価損 △65億円

<2019年12月末現在連結会社数：連結子会社 79社、持分法適用関連会社15社> (単位:億円)

決算実績表	2019年度3Q	2018年度3Q	増減	%
売上高 (歴代3位)	13,620	13,266	354	2.7
営業費用	13,073	12,988	85	0.6
営業利益 (歴代10位)	547	277	270	97.4
経常利益 (歴代9位)	569	262	307	117.1
親会社株主に帰属する当期純利益 (歴代11位)	336	346	△10	△2.9

<参考値> (符号は利益に対する影響を示す)

スライダタイムラグ(※)	50	△299	349
年金数理差異償却額影響	△57	△34	△23

(※)原料費調整制度において原油価格の上昇(下落)に伴う原材料費の増加(減少)が売上高の増加(減少)に先行することによる一時的な利益差異。

経済フレーム	2019年度3Q	2018年度3Q	増減
為替レート(¥/\$)	108.65	111.14	△2.49
原油価格(\$/bbl)	67.83	74.99	△7.16
平均気温(°C)(※)	19.5	20.3	△0.8

(※)お客さまそれぞれのご使用期間(前月の検針日から当月の検針日まで)における気温を平均したものを。

(2)都市ガス・電力販売量

		2019年度3Q	2018年度3Q	増減	%	
都市ガス	家庭用	百万m <sup>3</sup>	1,936	1,934	2	0.2
	業務用	百万m <sup>3</sup>	1,793	1,848	△55	△3.0
	工業用	百万m <sup>3</sup>	4,831	5,432	△601	△11.1
	計	百万m <sup>3</sup>	6,624	7,280	△656	△9.0
	他事業者向け供給	百万m <sup>3</sup>	1,362	1,423	△61	△4.3
合計	百万m <sup>3</sup>	9,923	10,637	△714	△6.7	

家庭用：低気温影響による需要増および件数減  
業務用：件数減  
工業用：発電専用需要家の需要減等  
他事業者向け供給：供給先稼働減

小売お客さま件数(千件)：9,259 (対前期△723) ※小売お客さま件数は、ガス小売事業者としてのガス料金請求対象件数。

取付メーター数(千件)：11,905 (対前期+135) ※取付メーター数は、休止中・閉栓中・他社小売分を含む導管事業者としてのメーター取付数。

		2019年度3Q	2018年度3Q	増減	%	
電力	小売	百万kWh	5,766	4,295	1,471	34.3
	卸他	百万kWh	8,392	6,703	1,689	25.2
	合計	百万kWh	14,158	10,998	3,160	28.7

小売：件数増による販売量増  
卸他：卸供給先増等

(3)セグメント別売上高・セグメント利益 (単位:億円)

	売上高				セグメント利益			
	2019年度3Q	2018年度3Q	増減	%	2019年度3Q	2018年度3Q	増減	%
ガス	9,553	9,476	77	0.8	561	262	299	114.2
電力	2,497	1,917	580	30.2	51	36	15	43.4
海外	339	402	△63	△15.7	111	134	△23	△17.5
エネルギー関連	2,449	2,490	△41	△1.7	117	104	13	12.8
不動産	337	332	5	1.5	84	72	12	16.9
その他	852	726	126	17.4	36	30	6	19.8
調整額	△2,409	△2,080	△329	-	△369	△342	△27	-
連結	13,620	13,266	354	2.7	593	298	295	99.2

(注)・セグメント別売上高には事業間の内部取引を含んでいる。  
・セグメント利益には持分法損益を含んでいる。セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配賦していない全社費用。  
・「ガス」の主要な製品・サービスは、都市ガス、リキッドガス事業(液化石油ガス、産業ガス)、LNG販売等。  
・「エネルギー関連」の主要な製品・サービスは、エネルギーソリューション事業(エネルギー、材料・サービス等)、ガス器具、ガス工事、建設等。

(4)主要計数 (単位:億円、%)

	2019年度3Q	2018年度3Q	増減		2019年度3Q	2018年度3Q	増減
設備投資	1,527	1,494	33	D/Eレシオ	0.82	0.69	0.13
営業キャッシュ・フロー	1,598	1,559	39	ROA	1.4	1.5	△0.1
有利子負債	9,286	8,032	1,254	ROE	2.9	3.1	△0.2

(注)有利子負債、D/Eレシオは2019年3月末との比較

2.2019年度 通期見通し <対前回(10.30)見通し>

(1)通期見通しのポイント 対前回 減収・利益変更なし(対前期 増収減益：純利益ベース)

都市ガス販売量	△224百万m <sup>3</sup>	気温影響による家庭用の減、発電需要減に伴う工業用の減等
電力販売量	+330百万kWh	小売・卸販売量増
売上高	△210億円	「ガス」の売上減△315億円(販売量減、フレーム影響に伴う単価減等) 他
営業費用	△210億円	「ガス」の営業費減△316億円(販売量減・単価減による原材料費減、諸経費減等) 他
営業利益	±0億円	ガス+1、電力±0 ※4Qの経済フレームは変更なし(原油価格70\$/bbl、為替レート110円/\$)

	今回	前回	増減	%	2018年度	増減	%
都市ガス販売量(百万m <sup>3</sup> , 45MJ)	14,069	14,293	△224	△1.6	15,198	△1,129	△7.4
電力販売量(百万kWh)	20,387	20,057	330	1.6	15,482	4,905	31.7
売上高	19,740	19,950	△210	△1.1	19,623	117	0.6
営業費用	18,610	18,820	△210	△1.1	18,686	△76	△0.4
営業利益	1,130	1,130	0	0.0	937	193	20.6
経常利益	1,140	1,140	0	0.0	893	247	27.5
親会社株主に帰属する当期純利益	770	770	0	0.0	845	△75	△8.9

経済フレームほか	今回	前回	増減	2018年度	増減
為替レート(¥/\$)	109.00	109.31	△0.31	110.92	△1.92
原油価格(\$/bbl)	68.42	69.50	△1.08	72.12	△3.70
平均気温(°C)	16.2	16.0	0.2	17.0	△0.8
スライダタイムラグ(億円)	△5	△21	16	△250	245

為替・原油変動の都市ガス粗利影響感度(4Q) (単位:億円)

	売上高	原料	営業利益
円・ドルレートが¥1/\$円安	1	12	△11
原油価格JCCが\$1/bbl上昇	0	1	△1